

HO YOG 教区新報

発行所
 浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
 〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
 (本願寺神戸別院内)
 電話 神戸(078)341-5949(代)
 (編集) 教区基推委広報部

1989. 12. 29号

この会は、組内の副任職が、寺院後継者として、また社会人として責任ある立場となり、より一層研修と実践を積み重ねようという趣旨のもとに、昭和五十八年に発足しました。現在会

「生活にどう生かすか」

赤穂南組 教学グループ「見真会」

記、会計、渉外、情宣等とそれぞれ役割を分担し、月一回は、例会を開いていますが、大きな行事の際には



交流を深めた赤穂北組若手僧侶との合同懇親会

教区だより

12月

12月1日(金)	基推委常任企画会議 10時半 研修読本作成部会 2時	19日(火)	住職・寺族同朋講座講師研修会 2時
2日(土)～3日(日)	豊岡教堂報恩講 岡本幸信師(神戸中組極楽寺) 豊岡教堂	23日(土)～25日(月)	寺院子弟研修会
6日(水)	組織教化連絡協議会 10時半	24日(日)～25日(月)	仏教青年研修会
12日(火)	京阪神都市開教本部会議 津村別院 5時	25日(月)	仏青年忘れヤングひろば 組長会
13日(水)	教区総代会評議委員会 10時半 青僧会・推進員街頭伝道 神戸大丸前 2時	28日(木)	教務所事務終了式 1月1日(月) 別院元旦会 8日(月) 教務所仕事始め
14日(木)～16日(土)	別院常例 小玉大誠師(城崎組国正寺) 1時半		

無量寺坊守・林さん 現代日本短歌大系(No.3)に24首

近代文芸社が平成元年の幕開けにあたり日本短歌界の圧倒的な支持を受けて、「現代日本短歌大系」の記念すべき歌集、書籍として扱われ出版されました。この書籍は三年余りをかけて全巻二十四巻まで出版されますが、その第三巻に神戸東組無量寺の坊守、林毅志子さんが二十四首を発表されておられます。その中から……

組同朋講座(住職寺族) 年3回開催のお願い

「御同朋の社会をめぐして」住職寺族が運動の中核であることの自覚をうながすことを目的として、元年度中に三回の開催を各組にお願しておりますが、全組開催をめざし各寺のご協力をお願いいたします。

「名称」	〇〇組住職・寺族	「御同朋の社会をめぐして」	同朋講座【主催】教区及び基幹運動推進委員会とするが実施については当該組担当とする【研修期間】前年度に引き続き行うものとし、元年度は三回の開催を原則とする。一講座三時間以上とし、一回は組同朋講座(一般部門)とも併催も可【参
「名刺」	〇〇組住職・寺族	「御同朋の社会をめぐして」	同朋講座【主催】教区及び基幹運動推進委員会とするが実施については当該組担当とする【研修期間】前年度に引き続き行うものとし、元年度は三回の開催を原則とする。一講座三時間以上とし、一回は組同朋講座(一般部門)とも併催も可【参

花祭り、八月のサマースクール、児童念仏奉仕団等に会員が丸となって推進してきました。

サマースクールは、初年度から各寺の持ちまわり制として、毎年開催し、地域の子ども達にも好評で、続けて参加している子も多く将来、それぞれの寺でよきリーダーとして活躍して頂けることでしょう。

花祭りは、今年で二回目、をむかえ、法話、パレード、アトラクションなど内容もより充実したものとなりました。

児童育成活動の外に、我々、会員の研修も積み重ねていますが、現在、正信偈のお領解に取り組み中ですが、また、会員の親睦を図るための場も設けていますが、組内だけにとどまらず、近隣の組との交流会を開いたりして、視野を広くしようと考えています。御一報下されば幸いです。

今後、私達の会の最も大きな課題は「日常生活にどうみ教えを生かすか」を自ら探り求め、実践的宗教としての道を開いていかねばならないことです。ご縁があれば御指導下さい。

(会長) 巖城 順二
(合掌) 錦織美穂



暗闇の中にいるものは他の姿を見ることが、自分自身を見ることも不可能です。もし明るい光の中ならば、他の、自分の姿を見ることは出来ます。親鸞聖人は光の中にある幸せに歓喜の声をあげていらつしやいます。赤穂々の自分は不完全な存在でしかない、不完全なるが故に、笑われて反省させられる、叱られて正しくなる、叩かれて強くなると、笑い、叱り、叩く人をおがまれました。だからそこには敵がありません◆また、他を叩き、笑い資格などないとおっしゃいます。これは「……スベシ」や「……スベカラズ」の世界ではありません。かぎりなき光りの中にあるものには「……セズニハオレナイ」生活があらわれてまいります◆それは、他が見ているからする、しがないではないのです。同じ光りの中にあるものへの一体感です。それは狭小な日本だけの問題ではなく、また人間だけの問題でもありません。一切衆生への永遠なるあらわれであります。

批判の欠落した現場肯定論



宗門の現状を問う―「浄土真宗の未来を探る」を読んで

けんしょう 正 顕
さかくに 尺一

同朋舎出版発行 定価八百八十円

青年僧侶の会から標題の書物をいただいた。信楽峻鷹先生の主張には全面的に賛成である。如何にしろ、くても、そのように生活して行かねばならないことがわかった。ただ、よく理解することが大切であろう。大村英昭先生の主張についてはいささか異見を持った。全然解からないわけでもない。箒星(ほうきぼし)が地球から遠ざかって行くような現状に焦燥感を持たれてのことであろう。その焦燥感私も同じく感じている。

しかし、大村先生はその焦燥感の解消の方法の原点を見失って方法論を立てておられるようである。結論

からいえば、真宗学で親鸞と列祖の教学の区別がないところに、現在の宗門の全ての混乱の原因があると私は思う。そして、その区別がつかないところに大村先生の間違いがあると思う。「民俗宗教としての阿弥陀如来信仰から、いったん開山信仰をもって脱却せしめたものを、もう一度逆転しなければならぬ」という発言がそのことを端的に示しているのではないだろうか。

民俗信仰としての阿弥陀如来信仰を自覚的な宗教にクリアしたのは法然であり親鸞であった。そのことを親鸞の生活論でいえば「出世のころおほく浄土の業因すくなしと候なるは、こゝろえがたく候・みなひとつにて候なり」と明確である。しかし、親鸞没後ではそれが真俗二諦として使分けの論理となつていく。大村先生は「真俗二諦を仏教的諦観の名において守る」といわれるが、仏教的諦観とはそのこと以外にはないのであるが、大村先生の発想は、現場の動きを肯定し思想化することのようである。問題は出世の心に対するという批判精神の欠落した思想化作業の提案であると思う。出世の心からこそ、新しい関係が生まれて来るといわねばならないの……。

撰電西組西楽寺住職



久堀先生の法話を聞く「はちす会」の寺族婦人

20才になった

はりま寺族教室 「はちす会」

坊守の有志が集まり、坊守学習会を始めて、二十年を迎えました。

連帯意識を持つとう!!
活動する坊守になろう!!
ご法義に会えた喜びを

確めあおう!!
と当時の血気盛んな若手坊守が構想をねって、はりま寺族教室(はちす会)は、姫路光源寺で産声をあげました。

あつてきました。家族的雰囲気の中で、御法義に会えた喜びは大きなものがありました。

『二十周年記念講演会開催』として、去る十月三十一日(火)産声をあげた光源寺様で、久堀弘義先生を講師に、記念講演会が盛大に開催されました。午後一時から始まった会は、先づ教務所長様の激励を兼ねたご挨拶、会場の光源寺ご住職様のお祝の言葉、教区寺婦連盟委員長森本美栄子様のお祝の言葉を戴いて、はちす会代表の方の「二十年のあゆみ」を話される時は感激のあまり涙で声のうるむ一幕もありました。

「アミダ仏とお浄土」という講題で久堀先生より御法話を戴き、集まった坊守、七十余名はひとことも聞きもらすまいと熱心に耳を傾けました。ご法話が身に満ち満ちて、喜びの面持ちさめやらぬま、次回平成二年一月に予定されている懇親会での再会を約束して午後四時閉会、西へ東へと袂をわちました。

学ぼう!
語ろう!
弘めよう!
はちす会記

別院で二組の結婚式

HOPE

◆10月23日 結集大会準備委員会常任委員会。各組の組集大会実行委員会設置についての教区助成、大会当日の企画及びプログラムについては常任委員会の中の総合庶務が中心となり検討することなど◆24日 少年連盟役員会。平成三年の本山大会に向けて教区で来年四月三日に「教区ごものつどい」を神戸のメリケンパークなどを中心に開催することとなった◆25日 教区総代会ブロック研修会を氷上西組正福寺で。講師は西脇正文師、丹波プロックよりの参加者六十二人◆26日 組住職寺族同朋講座講師研修会。午前中は今日までの講座をふりかえって参加者からの発表があり午後は講師の内から今後の講座の実施と進行について西脇修師より運動の理念と定義、問題の対応、問題提起をどう受けとめるかなどの講義と質疑などが行われた。今回は講師二十三名中五名の参加となり十二月十

九日にも引き続き開催となった◆出石組高福寺住職の葬儀に本山よりの達書伝達のため教務所長出席◆27日 社推協常任委員会。社会福祉推進ステッカー「尊い生命を大切に」の作成、頒布など◆布教団副団長会議並びに役員会。別院で来年二月二十一日に開催される四百年記念法要お持ち受け布教大会、来年六月二十一日の第六回全国布教使大会などについて◆神戸中組住職寺族同朋講座を光徳寺で開催。教区派遣講師は西脇修師◆28日 岡山北組同朋

講座を妙願寺。講師は藤田真哲師◆別院で神戸真宗連盟主催の第三回講演会。「生命めぐまれて」のテーマで二百人近い聴衆者でした◆29日 別院の仏前結婚式を所長の司婚で。新郎のお母さんが城崎組の光永寺のお生まれで今回のご縁となりました◆スカウト指導者研修会。宗祖伝について研修、講師は西脇修師◆30日 都市開教推進部会。拠点開教、テレホン法話促進パンフなど◆31日 仏婦ダイナ活動会議を撰電西組超念寺で。ダイナ手帳作成◆



別院ではなやかに行われた仏前結婚式

30日 11月2日 本山よりの会計監査。別院、教務所、豊岡教室、江並教室の順で六十二年と三年の二会計年度の監査◆11月1日 播磨東組同朋講座を専心寺。講師は杉本昭典師◆3日 第九回仏壯全国大会を本山開催。教区より仏壮会員二百八十九人参加、午後の園遊会は新境内地で「さすがに広いですね」と会員◆6日 青僧会役員会。十二月十三日神戸大丸前での街頭伝道、パンフのことなど◆広報部会◆岡山県の国立ハルセン病患者療養施設、長島愛生園追悼法要。園の中にある福祉会館で小滝教務所長の導師で阿弥陀経を二百人近い参加者と共におつとめた。翌七日は愛生園真宗同朋会と同じ長島にある療養施設、光明園真宗法話会で報恩講が厳修された◆7日 別院仏婦常例。講師は尾上和正師(阪神西組円徳寺所属)「やさしくわかりやすかったですね」とお同行◆神戸市中央区仏教会の税務研修会を神戸中組西方寺で。別院からも会計担当職員参加「とにかく個人と宗教法人との区別はしっかりしてほしい」と約五十人の参加者を前に神戸税務署より来られた五名の方

の力説でした◆8日 琵琶ラ推進部会。教区でのビハラ研修会実施などについて◆阪神西組浄専寺前坊守の葬儀に本山よりの達書伝達のため教務所長出席◆9日 基推委常任企画会議。今年度の教化行事の反省と次年度へ継続の活動等◆研修読本作成部会。仮章「私にとつて宗教とは何か」をたて、問い、記述、段組み、脚註と図示、写真の入れ方など各委員の草稿をふまえての活発な検討となる「問いを出すいじょう、その問いを産み出すような記述をする。疑問を持つて連研に入る受講者は少なく、連研を重ねる中から問いを持つてくる。しかし、問いの答えが文章の中にすべて書いてあるような記述ではない」◆「今までのような『宗教の中に仏教があり、仏教の中にも真宗がある』との進め方はしない。真宗こそが宗教であり、真宗こそが宗教であることのおさえて進めたい」等々◆10日 結集大会総合庶務部会。プログラム、アトラクション、講演とシンポジウムの内容

など◆12日 スカウト指導者研修会。四諦八正道について、講師は前回に引き続き西脇修師◆13日 阪神北組同朋講座を源照寺。講師は谷川弘顕師◆神戸東組同朋講座を西方寺。講師は高崎長英師◆14日 16日 別院常例。近藤龍雲師「じつくり聞かしていただきまし」とおじいちゃん◆15日 近畿教誨師研修会を和歌山ターミナルホテルで開催◆16日 別院報恩講職員打ち合わせと勤式練習。二門偈作法の念仏を何とか合わせたいの思いが、なかなか声に出ない職員でした◆19日 別院の仏前結婚式。新婦は和歌山の西教寺のお生まれ新郎は現在神戸市北区にお住まいで「このご縁を機に別院にもお参りしたいので、ぜひご法座の案内送って下さい」と新郎◆十九日は奈良教区より二組の団参があり、二百人以上のお参りに結婚式の後かたづけ等、職員はおお忙しでした◆22日 撰電西組一行寺前任職の葬儀に本山よりの達書伝達のため教務所長出席。

奈良から200人団参